

2012 年度 博士論文題目（課程博士）

氏 名	論 文 題 名
黒 宮 亜希子	被災者の生活復興に関する社会学的研究 ～生活復興感とその規定因の解明～

2012 年度 修士論文題目

氏 名	論 文 題 名
河 村 咲 弥	デルファイ法を用いた災害脆弱性の可視化に関する実践的研究 ——京都市内 1 学区における災害時要援護度マッピングとカテゴリウエイトの策定——
小 林 勝 平	ゲーミフィケーション概念の可能性と限界 ——震災ボランティアにおける 2 つの節電ゲームと動員を目的としたゲーミフィケーションについての考察——
西 岡 暁 廣	厳罰志向に関する社会学的研究 ——デュルケム社会学的観点による理論的・歴史的・実証的検討——
曾 怡 馨	日本の労働市場における留学生の参入と企業の採用要因 ——JILPT「外国人留学生の採用に関する調査を用いて——

執筆者紹介

河口 充勇

東京女学館大学 国際教養学部 国際教養学科 専任講師

竇 少杰

同志社大学技術・企業・国際競争力研究センター 特別研究員

金 香男

フェリス女学院大学 国際交流学部 准教授

小林 勝平

同志社大学大学院 社会学研究科社会学専攻 博士課程前期

山本 圭三

摂南大学 経営学部 講師

金 政芸

同志社大学大学院 社会学研究科社会学専攻 博士課程後期

猿渡 壮

同志社大学大学院 社会学研究科社会学専攻 博士課程後期

『同志社社会学研究』編集規定

【1】本研究誌は同志社社会学研究学会の機関紙として社会学の研鑽に寄与し、また会員相互の研究交流に資することを目的とする。

【2】掲載内容は以下のものとする（枚数：400字）

研究論文（40～60枚）

研究ノート（20～30枚）

書評

その他

【3】編集委員は本学社会学科教員、同院生、同修了・卒業生の代表により構成される。専門委員は本学社会学科教員より構成される。

【4】投稿者は本学社会学科教員、同院生、同修了・卒業生とする。

【5】原稿は書籍、学術雑誌に未発表のものに限る。掲載の可否は、専門委員の審査の結果を受け、最終的に編集委員が行う。

【6】原稿の締め切りは12月末、発行は3月とする。投稿者は10月末までに専門委員1名に草稿を送付するとともに投稿の意思を伝え、12月末までに当該専門委員に最終原稿を送付しなくてはならない。

【7】執筆要領

横書き、口語常体、完成原稿で提出。註や参照文献の書式は日本社会学会機関誌『社会学評論』に準じ、論文の最後に別々にまとめる。詳しい執筆要領は別に定める。

【8】提出原稿の形式

原稿には日本語と英文タイトルをつけ、ハードコピー（40字×40行）と電子媒体で提出すること。

【9】執筆者の原稿は、同志社大学ホームページ上の「同志社大学学術リポジトリ」上に公開することを原則とする。

【付記】

その他の事項については、社会学の研究誌としての性格に鑑み、編集委員会が対応する。

（2009. 7. 26 改正）

◆ 研究室だより ◆

2012年度の社会学研究室は、久しぶりに9人のメンバーが通年で全員揃うことになりました。昨年度に引き続き尾嶋史章先生は社会学部長、藤本昌代先生は日文センター所長で忙しくしておられました。また、鯉坂学先生は2012年5月から地域社会学会の会長（任期2年）に就任されました。他の先生方も研究、教育等で飛び回っておられます。

研究室の国際的な動きも近年たいへん活発になっています。春学期にはフランスの Cergy-Pontoise 大学から Arnaud LeFranc 先生、香港大学から王向華（Dixon, Heung Wah Wong）先生がそれぞれ客員教員としていらっしやり、とてもにぎやかでした（歓迎会は川床料理でおもてなしました）。また、その縁もあってか、学振の外国人特別研究員として受け入れていた金秀妍（Su Yun Kim）さんが秋から香港大に就職しました。秋からは韓国の韓国学中央研究院から文玉杓（Okpyo Moon）先生が西陣の研究をするために1年間いらっしやっています。その他、同志社大学がこれまでのグローバル30（留学生受け入れ）に加え、グローバル30+（グローバル人材育成）なる事業に採択されたこともあり、学生の出入りも頻繁になってきています。

社会学専攻が本学の大学院に設置されたのが1993年4月ですので、今年で20年を迎えることとなります。本誌は1997年、博士後期課程が設置された年に創刊され、本号で第17号を迎えます。創刊号を読むと、ようやく念願の博士後期課程設置・学会創立・雑誌創刊までたどり着いたという熱い思いが伝わってきます。今や社会学専攻はそうした草創期も、そして安定期も過ぎ、そろそろ新たな段階を考えなければならない時期にさしかかっているように思えます。大学全体も、4月には文系学部が全て今出川校地に移転してくるのみならず、15年ぶりに学長が交代することになり、転機を迎えつつあるようです。慌ただしくなりそうですが、落ち着いて乗り切っていきたいと思います。（板垣）

◆ 編集委員 ◆

立木 茂雄 (同志社大学教授)
板垣 竜太 (同志社大学准教授)
杉本久未子 (大阪人間科学大学教授)
松本亜沙香 (大学院後期課程)
岡本 洋一 (大学院後期課程)
徐 慧 (大学院前期課程)

同志社社会学研究 第17号

2013年3月31日発行

発行人 同志社社会学研究学会

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL. 075-251-3441

FAX. 075-251-3066

印刷 協和印刷株式会社